

[野菜部門]

10. 夏秋雨除け栽培で発生するトマトすすかび病の防除に重要な殺菌剤散布時期

[要約]

トマトすすかび病に効果の高い殺菌剤を、慣行防除に加えて予防的に6月中旬及び7月上旬に散布する防除体系は、すすかび病の発生を9月まで抑制し、栽培後期の発病程度を軽減する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県の夏秋雨除けトマト栽培圃場では、6月中旬以降トマトすすかび病の感染好適条件が出現し続け、感染したトマトは10～20日程度で発病し、7月下旬以降急速に蔓延する。そこで、感染始期および病勢進展時期に効果の高い殺菌剤を追加散布する防除体系の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 慣行防除で7月中旬以降にすすかび病が急増した圃場において、①6月中旬（ファンベル顆粒水和剤、ベルクトフロアブルまたはダコニール1000）及び②7月上旬（トリフミン水和剤）に薬剤を追加散布する体系防除は慣行防除と比べて、9月上旬までほとんど発病が認められない（図1）。
2. 薬剤の違いによる防除効果の差は認めない（図1）。
3. 体系防除区は栽培後期に発病株割合は高まる（図1）ものの、初期の病勢進展を抑えることで発病程度は慣行区よりも低い（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 薬剤散布は、葉の裏側や新しく展開する葉にも十分な薬液がかかるよう、丁寧に散布する。
2. 7月上旬以降もすすかび病登録薬剤を含む定期的な防除を行う。

[具体的データ]

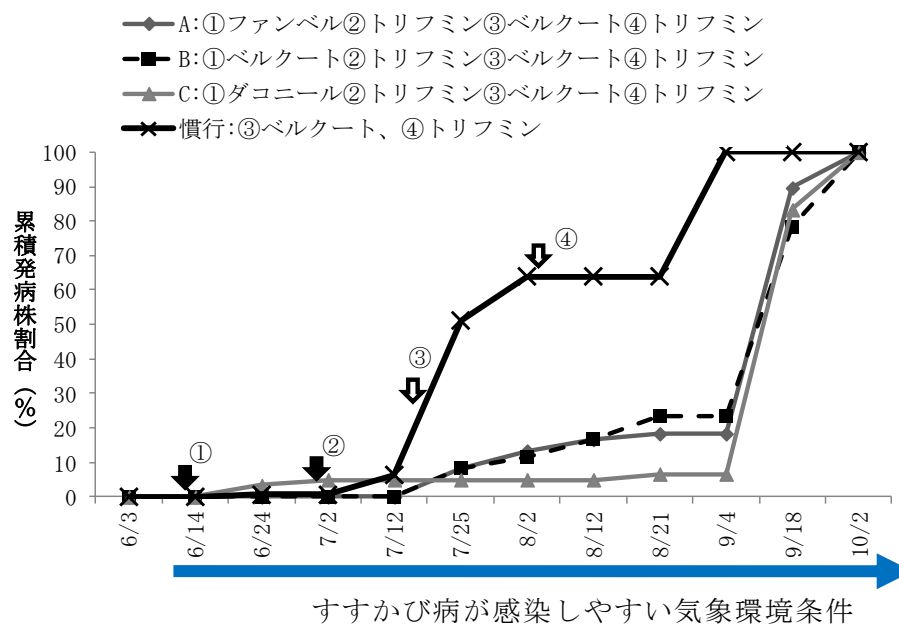


図1 殺菌剤散布とすすかび病の発病推移（散布日：2013年6月13日、7月2日）

黒矢印：生産者慣行に追加した殺菌剤（図中のA、B、C区）の散布日

白矢印：生産者慣行におけるすすかび病に登録のある殺菌剤の散布日

希釈倍率、散布量：ファンベル顆粒水和剤1,000倍、ベルクート水和剤2,000倍、ダコニール1000の1,000倍、トリフミン水和剤3,000倍、いずれも250L/10aを散布



図2 すすかび病に対して効果的な時期の殺菌剤散布が栽培後期のすすかび病の発病程度に及ぼす影響

（2014年10月8日調査）

左図：生産者慣行防除に追加して、2014年6月13日にダコニール1000、7月1日にファンベル顆粒水和剤を散布

右図：生産者慣行防除

[その他]

研究課題名：トマトすすかび病の多発要因の解明による総合的防除技術の確立

予算区分：交付金（病虫害防除総合対策事業費）

研究期間：2012～2014年度

研究担当者：桐野菜美子、川口 章、畔柳泰典

関連情報等：1) [平成25年度試験研究主要成果、63-64](#)

2) [平成26年度試験研究主要成果、43-44](#)